でっかわクールな幼馴染は、
僕をどろどろに甘やかす

私が憧れたのは
臆病風に吹かれている
あなたじゃないわ
彼女の姿が
遠のくほど、
…さよなら
鷹秋(たかあき)……
胸の奥がジリジリと
炙られていくのを感じた
ガバッ!!
はあ…
まただ……
なんでこんな夢ばかり…

寒そうだなぁ…
もう冬があっという間だ
ん…？
ギャー
ギャー
…って
聞いてんのかよ鷹秋!?
火野(ひの) 樹夏(いつか)
ヤンキーっぽい風貌だけど、中身はそうでもない
ドン!
…えーっとなんだっけ…？
ポリ
ポリ
なんだっけ～、じゃねぇよ！ぼーっとしやがって…
罰ゲームだよ
バ・ツ・ゲ・ー・ム!!

アンタにしばらく
ちょっかい出さない代わりに、
罰ゲームをしろって
言ってんだよ!!
ちみっ…
やっぱり胸ぐらは
掴まないんだ……
優しい…
そうだったね
……で、
その肝心の罰ゲームの
内容って何なの？
イヤな予感…
告白すんだよ！
アンタもよく知ってる
アイツになァ！
ズバァ…
ず
い
……僕と樹夏が
よく知ってる人って…
まさか……！
冬結だよ
その名前が出た瞬間
僕は天を仰いだ

氷里（こおり）　冬結（ふゆ）

彼女は僕と樹夏の
古くからの友人
……のはずだ

才色兼備

キャー♥

冬結さま♥

名前の如く
冷たい雰囲気と
他を圧倒する
大きな背丈は
女子たちの憧れの
的になっている

ただ、
あまりにも高みに
見えてしまう
彼女の周りに、
人の声が届く
ことは無かった

いつだって皆、
遠巻きで
眺めるばかり……
そう――

一人を除いては

近所のばあちゃんが
飴くれてさぁ～

僕だって本当は樹夏みたいに、
冬結と話がしたかった
でも

その気持ちが恥ずかしくて
堪らなくなるぐらいに、
僕らの差は
広がってしまったから
ギュッ

成長するにつれて、
冬結は才能を開花させ
……大人びていった

それにくらべて僕は、
得意だった勉強もスポーツも
どんどん周りに
ついていけなくなった
冬結が僕から
離れたんじゃない
僕が……
僕がずっと
後退りしているんだ

――だから僕は今、
彼女に告白している
ぼ、
僕と付き合ってください!!
ガッ!
もうこのままの関係は嫌だ
ブル
ブル
たとえ罰ゲームが始まりの告白でも
この気持ちは絶対に嘘なんかじゃない!!
――放課後……
私の家で
冬結は
それだけを言い残して去って行った

放課後
ピンポーン
ドキ
ドキ
ガラガラ…
上がって
…私一人だから
あ……うん
……さっき
してくれた告白の
返事だけど…
……
ゴク…
きゅっ…
ビクッ
!?

…付き合いましょう…
私たち
えっ…!?
それと……
ばっ
告白が罰ゲームなのは分かっているから
ボソ…
ド!!
キッ
なんでバレた!?
どうしてバレた!?
告白が罰ゲームと分かった上で…
……
…つまり冬結の返事は本心じゃないのか…?
……そう
信じられないのね
なら、
キミ

ちゅっ
私がどう思っているのか…
――その身体で確かめてみて
ちゅ…
ちゅ♥
ちゅる♥
んむっ
!?
…逃げちゃダメ
ぎゅっ♥
ぐじっ…
れろっ♥
ん…
れろっ…
…
ちゃぷ♥
ちゅ♥
!

…腰が動いてる…
…っ!!
チラ…
ぐり…
大丈夫…
私に任せて
スッ
ごそ…
はぁ…
へ…？
はぁ…
ちょっ…冬結!?
さわさわ…♥
こす♥
こす♥
こんなに盛り上がってる
ジー…
じわ…
びくっ
窮屈でしょう？
出してあげる
あ…
はぁ…
はぁ…
びくっ
びくっ
う…
くちゅ♥
くちゅ♥
男の子のおちんちんってこんな感じなのね
恥ずかしがらなくていいのよ…

はむっ♡
ビクッ!?
…楽にしてて
あ…
ぬぷ…
ぢゅぽ、
ぢゅぷ…
冬結…!?
何して……
ぬぽっ
あっ…♡
べくっ…
ぐぢゅっ♡
ニッ♡

やばい…
どうしよう……
ぺろっ
ぺろ…
ぺろぺろ
ぺろ…
ぺろぺろ
ぺろ…
ぺろぺろ

ドリ!
ぬりゅ…
しゅる…
びくっ…
も……出る…
まずいっ!
ドピュッ!
クーッ…!
あっ、ふ、冬結…!!
ごめん…!!
口に…
サッ
ニコ…
…嬉しい
こんなに感じてくれたのね
勉強しておいて良かった…
ごしっ…
…の…飲んじゃった…!!
ドキ…ドキ…
…あら?

ちゅっ
ん…♥
ちゅっ
れろっ♥
ぴちゃ…
また元気になってきた……
すりっ♥
ちゅっ
ん♥
ちゅっ
シュッ♥
う…♥
シュッ♥
シュッ♥
冬結…ッもう…ッ
はぁっ
はぁ
ゾクゾクッ
シュッ♥
シュッ
んむー!!
どぴゅるるる…

見て…
こんなに
いっぱい…♡
はぁ…
はぁ…
どろぉ…♥
むちっ♥
どくん、
じぃ——…
手がべとべと…
うわ…!!
冬結のおっぱいが
目の前に……
ぷに…
ふふ…見すぎよ
胸ばっかり
ドキッ
ぺチ…
ぺチ
えっ
あ…

…そんなに気になるなら
見せてあげる
ぷち
ぷち…
ぷ
ぐいっ
ぷるんっ
ほら…触っていいのよ？
むにゅう
うわ…すごく柔らかい……！
ドキドキ…
夢みたいだ…冬結のおっぱいに触れるなんて…！
もにゅ
たぷ

ぎゅむっ♡
あっ♡
んっ♡
んんっ♡
コロ
コロ…
そんなに夢中になって…♡
気に入ったの？私の胸…♡
びくっ♡
びくんっ♡
う…うんっ
柔らかくて気持ちいい…！
むにゅっ♡
くりくりっ♡
う…また勃ってきちゃった…
2回も出したばっかりなのに…
冬結に呆れられたらどうしよう…！
でもこんなの興奮するに決まって…
嬉しいわ
それなら…
ぐいっ
わっ!?

おちんちんにも気に入ってもらえるかしら？
ドキ
ドキ…
ふぇっ!?
それってどういう…
む
んっ♡
に
ふ…冬結のおっぱいに僕のおちんちんが包まれて…！
ズリッ♡
あっ♡
うあっ♡
ずりゅっ♡
ぐいっ
あぁ…すごい…♡
すにゅっ♡
スリュッ♡
おちんちんが胸の中で…どんどん硬く熱くなってくぅ…♡

ふふ…お汁もこんなに沢山…♡
ご…ごめん…
しゃん…
？どうして謝るの？
いや…情けないなって思わない…？
そんなことないわ…欲情してもらえて私…
すごく嬉ひい♡
あぁっ♥
はっ
むっ♥
んむっ♡おいひい…
鷹秋のおちんちん…♡
じゅぷっ
にゅぷっ♥
むちっ♥
冬結…ふゆっ…
びくっ
びくっ
おっぱいも口も全部良すぎて僕…っっ!!
!!
ぷっ
あっ

…全部じゃないわ
まだ確かめてないトコロ…あるでしょ？
!!
う…うん…！下も…見せて冬結…！
ふふ…勿論よ…♡
鷹秋の…
ドキ…
好きなように…♡
ドキ
ぐいっ

じ～っ
ヒクヒクしてる…
こ…これが冬結の…
そ、そんなにまじまじと…
ぐ
ぽぁっ
へく
へくっ
とろ…♥
ぉれ～♥
ビクンッ♥
きゃぁんっ?!
ペロッ

ふぁ…あぁ♡
た、鷹秋ぃ…♡
そこ…すごいッ…
気持ちいいわ…♡
ビクッ♥
ビクンッ
ぴちゃ
ぴちゃっ
ん♥
れろ
れろ…
あぁ♥
ビクッ
あぁあっ♥
ビクビクッ
ぢゅうう♥
よかった…冬結
感じてくれてる…
とろとろの汁が
どんどん溢れてくる…
ホッ…
おまんこの
中に入るには
この穴…で
いいのかな…？
ぬち…
ま、待っ…！

ぴくぴくっ♡
プシッ…
ゆ…指だけでこんなに…
おまんこってそんなに気持ちいいんだ…！
こ…ここに僕のおちんちんを挿れたら…どうなっちゃうんだろう…？
ごしっ…
トロ…
はーー…♡
はーー…♡
ギン
ギン…

鷹秋…
「挿れたい」って顔してる…
私もココに鷹秋が欲しい
ぽぁ…
おいで…♡
うん…!!
んっ♪
あれっ…
滑ってうまく入らない…っ
ふふ…仕方ないわね
モヮ
モヮ…
ココよ…そのまま…
ゆっくり…押し込んで

あ
ぬぷ
ぷ…
あぁこ♥
すり
ぁぁっ♥
挿入れたぃぁ♥
ぷん

う…あ…
おまんこの中すごい…っ
挿れただけで
イきかけちゃった…
ふふ…私も
イきそうだったわ
だけど
せっかく繋がれ
たんだもの…
エッチでイかなきゃ
勿体ないわよね
…動けそう？
……うん……
ぱちゅっ
パンッ
ふあぁあっ♥
パンッ
パンッ
あっ♥
ダメ…っ
ぐりっ
ぐりっ
トンッ

冬結っ！
す…好きだよっ！
ずっとずっと…昔からっっっ！
冬結の事が大好きだよ!!
ぱんっ
ぱんっ
…ようやく聞けた
へ…？
はぁ…
はぁ…
ん…っ
ぐいっ
きゅん♥
きゅん♥
ぬるっ
ぐぷっ

私も…ずっと前から
鷹秋のことが
ぷあっ
好き・・・
あっ?!
ドプンッ
キュうぅぅん
うぁ、ヤバいっ!
え?
ずるんっ

もう・・・
せっかくこんなに出たのに
全部お腹の上に…
とろぁ
は―♡
は―♡
勿体ないわ…
だ、だってゴムつけてなかったし…
中に出されたら嫌でしょ…？
がばっ
ウワーッ
む。

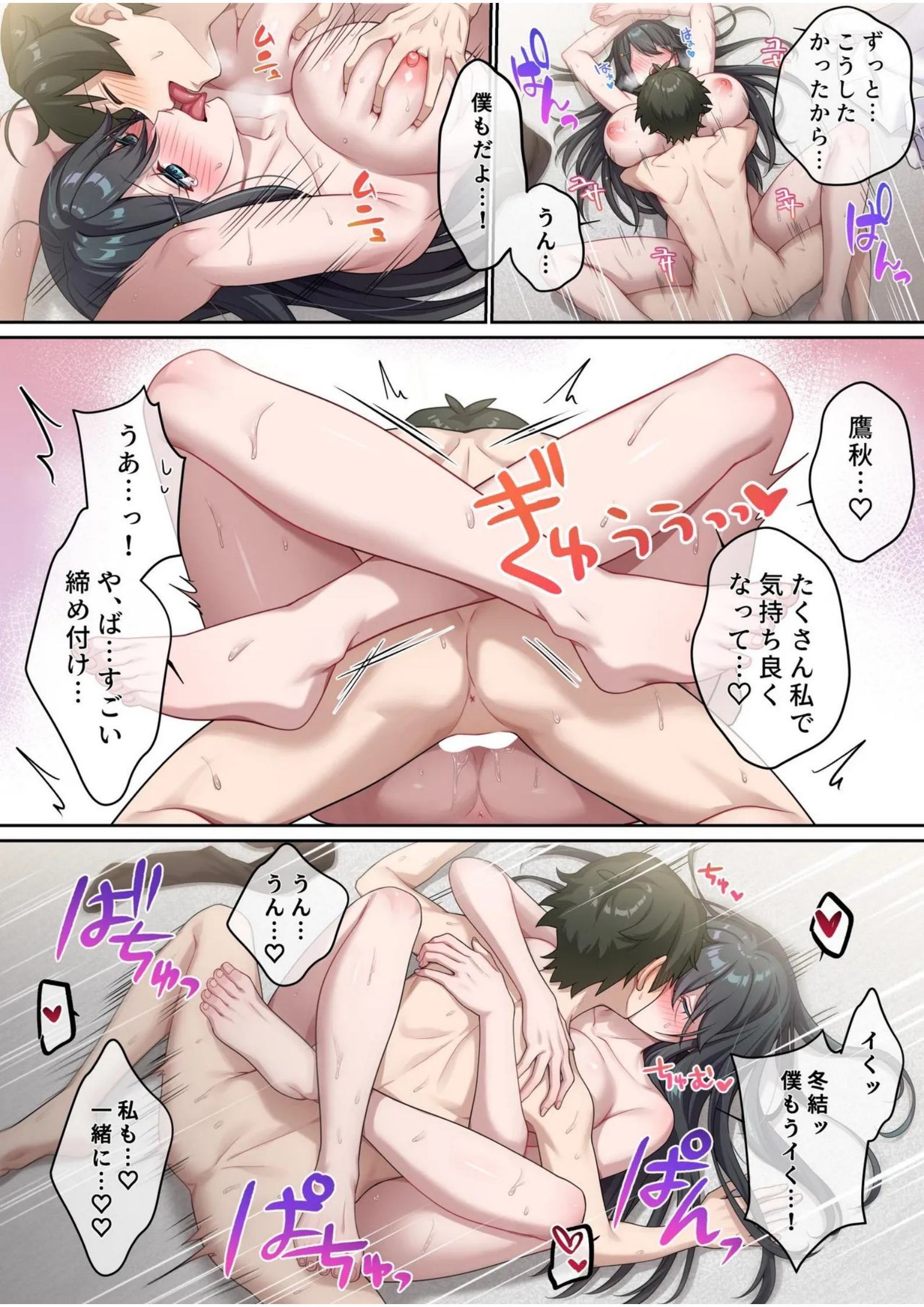
出したいなら
中に出せば
いいじゃない
で、でも
冬結は…
私の気持ち…まだ
伝わってない？
鷹秋の事が
好きなの
好きな人には
何でもされたいの
にゅむ…
ぴく
ぴく
ぴく
はぁ…
はぁ…
好きなように
してほしいの…
どぷ
ぷ…

私の背が伸びた頃くらいよね…
ずぷっ
ずぷっ
みちっ
鷹秋が話しかけてこなくなったのは…
ずぷっ
はぁ
ずぷっ
はぁ
ずぷっ
はぁ
ずうっと距離を置かれてばかりじゃ嫌…
ぐいっ
もっと甘えてほしい…！
あぁ…
ぱんっ
ぱんっ
そうだ…離れていったのは冬結じゃなくて
んっ
んぁっ
僕のほうだったっけ…

冬結は
僕のことをずっと
好きでいてくれた…
あんっ
はっ
はっ
はっ
ばるんっ
ぼんっ
ゆさっ
ぼんっ
ゆさっ
冬結ッ
きゃっ
がばっ
僕だって…！
すぽんっ
んっ!?
ぐっ

ずるる…
あ…
あぁ…♡
今まで臆病でゴメン…！
これからはもう…
あぁんっ♡
ズキュンッ
ぱんっ
パンッ
キュン♡
ムギュゥゥ
パンッ
ズンッ♡
遠慮しないから!!
ふぁあああんっ♡
ぱちゅんっ
そこぃ♡
ちが

ぴくぴくっ
ちゅっ
ぱんっ♡
ぱんっ
あぁ…♡
胸とおまんこを
同時に…♡
気持ちいいわ
鷹秋ぃ…♡
ナデ
ナデ…
ふふ…
いい子
いい子♡
はぁっ♡
も、もう！
からかわ
ないでよ…！
ふふ…♡
だって嬉しいん
だもの…♡
ずちゃっ
ずちゅんっ


ずっと…
こうした
かったから…
ぱんっ
ぱんっ
うん…
僕もだよ…！
ムニュ
ムニュ
鷹秋…♡
ぎゅうううっ♥
たくさん私で
気持ち良く
なって…♡
うあ…っ！
や、ば…すごい
締め付け…
イくッ
冬結ッ
僕もうイく…！
ぱちゅっ
ぱんっ
ぱちゅっ
うん…
うん…♡
私も…♡
一緒に…♡♡

冬結っ！
出すね…！
ばちゅっ
ずちゅっ
ええ…♡
今度こそ…
膣内に…
たっぷり…
ちょうだい♡♡
あ♥
あぁぁ♥
びゅーっ♥
びゅーっ
はぁ…
あ…はぁ…
すっごい…っ
気持ち
よかったぁ…
はぁっ
ふふ…私も…
はぁ…
冬結…
大好きだよ
もう離れない
からね
ええ…ずっと
傍にいてね

コソ…
……アイツが冬結の家に入って
三時間ぐらい……
これは上手くいった……ってことでいいんだよな
ふ――…
ったく世話の焼ける奴らだぜ
……つか
あん時アタシに告白しろって言ったら――
アイツとアタシは……どうなっていたんだろ？
やっぱ……なるようになるよな…
かあぁ…
っせぇぞ!!
ニタ
タタタッ
アタシはまだ野郎のことなんざ知りたくもねぇ!!

ナデ
ナデ
嬉しい…
鷹秋とまた話せた上にこんな風に触れ合えて…
しこ
しこ
しこっ
きっと樹夏が鷹秋を焚きつけたのね
ちゅう♥
ちゅこ
ちゅこ
ちゅこっ
ホントに優しいんだから…
…って言ったら嫌そうな顔をするんだろうなぁ…
うーん…
優しくねーし
ほめんなし
樹夏のこともうんと甘えさせてあげなくちゃ
きゃ♥
ビクビクッ
ふぁぁ…♥
トプッ♥
あの頃みたいに…また3人で…

お、おはよう
ぇぇ おはよう
あの後、
僕は冬結の家に泊まって
そのまま学校へ来たのだ
冬結が樹夏以外と
話をするのは見たことがない
ザワッ…
えっ!?
コソ…
どういう関係…?
コソ…
だから彼女たちは
驚いているんだろう
でも
今の僕には
そんなことは
どうだっていいんだ
いつだって、
僕はこうして
いたかったんだから
じ——…

もちろん、
樹夏だって
そのはずだ
僕らは
樹夏を
影の立役者のままに
しておく気なんてない
追いつかなくなる
歩幅に
焦る気持ちは
募るけど
おいで
おいで
今も待ってくれる
人たちがいるから
僕は——
12:34
11月22日 金曜日

作画協力：森深雪様
シナリオ協力：夙川鴫様
制作：南北めごち（Twitter：@nanbokumegochi）

無断転載・複写・アップロードを禁じます。